

北海道公立大学法人札幌医科大学の中期目標期間(平成25年度～平成30年度)  
業務実績に関する評価結果の概要(案)

### 1 業務実績の評価について

業務実績に関する評価は、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、北海道公立大学法人札幌医科大学（以下「法人」という。）から提出のあった中期目標期間における業務実績について、知事の附属機関である北海道地方独立行政法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行うこととなっている。

### 2 評価方針と方法

- (1) 道が定めた中期目標に基づき法人が作成した中期計画の実施状況について評価することを基本方針とする。
- (2) 評価の方法は、「全体評価」と「項目別評価」とし、法人から提出のあった中期目標及び中期計画に係る業務実績及び自己評価について、評価委員会によるヒアリングを実施し、総合的に判断の上、評価した。

### 3 評価結果

#### (1) 全体評価

中期目標期間業務実績報告書の自己点検・評価を踏まえ、業務の実施状況を確認したところ、中期計画全57項目のうち、4評価以上となった項目は54項目（94.7%）となっており、年度計画に基づく毎年の取組により中期計画がほぼ計画どおり実施されたと評価できる。

また、中期目標については、全31項目のうち、iv評価以上となった項目は28項目（90.3%）となっており、達成状況が良好であると認められる。

#### (2) 項目別評価

自ら設定した数値指標である附属病院の収支改善の目標が達成できていないため、病院運営の改善を自己点検・評価「iv」から評価委員会評価「iii」とし、その項目を含む（3）附属病院の評価をⅢ「中期目標の達成状況が概ね良好である」とする。

項目	評価				V	IV	III	II	I
	計	v	iv	iii	中期目標の達成状況が非常に優れている	中期目標の達成状況が良好である	中期目標の達成状況が概ね良好である	中期目標の達成状況が不十分である	中期目標の達成には重大な改善事項がある
(1) 教育	6	1	5	0		○			
(2) 研究	2	1	1	0	○				
(3) 附属病院	3	0	2	1			○		
(4) 社会貢献	6	2	4	0		○			
(5) 運営	2	0	1	1			○		
(6) 組織及び業務等	2	0	2	0		○			
(7) 財務	1	0	1	0		○			
(8) 外部研究資金等	1	0	1	0		○			
(9) 経費の効率的執行	1	0	1	0		○			
(10) 資産の運用管理	1	0	1	0		○			
(11) 評価の充実	1	0	1	0		○			
(12) 情報公開等の推進	1	1	0	0		○			
(13) 施設設備の整備等	2	0	2	0		○			
(14) 安全管理その他	2	0	1	1			○		
合計	31	5	23	3	1	10	3	0	0
					全体：達成状況が良好である（90.3%）				

v：中期目標を上回って実施している

iii：中期目標を概ね実施している

i：中期目標を実施していない

iv：中期目標を十分実施している

ii：中期目標を十分には実施していない

### (3) 主な取組

#### ア 教育について

- ・ 教育については、北海道の地域医療に貢献する意思のある優秀な学生を確保するため、学生選抜方法を検証し募集方法等の改善を行い、道内出身の学生が高い割合で入学するようになった。

#### イ 研究について

- ・ 研究については、がんワクチンや、神経再生医療に係る治験を実施し、脊髄損傷（急性期）の治験薬は、平成31年2月に薬価基準収載となり、脊髄損傷の再生医療が、世界に先駆けて北海道で初めて実用化されることとなった。

#### ウ 附属病院について

- ・ 附属病院については、「がん看護相談」を開始し、相談業務の充実を図ったほか、手術支援ロボットを用いた最先端医療やハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の提供など、診療機能の充実を図った。

#### エ 社会貢献について

- ・ 道内の医療機関に対して医師派遣を行い、数値指標の公的医療機関への医師派遣件数は、平成24年度比113件となり、目標の100件増を達成した。
- ・ 産科周産期・循環器に係る医師の派遣・常駐化に向けた取組を進め、平成25年度から、道立江差病院へ産科周産期医師を派遣し、平成27年度からは、同病院へ循環器医師も派遣するとともに、平成29年度には、小樽協会病院に産婦人科医師を派遣した。
- ・ 道民の疾病の予防や健康づくりに向けた意識啓発を図る公開講座等を年平均60件以上開催し、民間企業及びマスメディアと連携した特色ある公開講座等を活発に開催した。

#### オ 財務について

- ・ 運営費交付金については、あらゆる経費の見直しや重点的経費への予算措置等を明記した予算編成方針に基づき、交付金削減に対応した予算を編成するとともに、事業の効率的な執行に取り組み、毎年、前年度比1%縮減の数値指標を達成した。

## 4 所見

- ・ 脊髄損傷（急性期）の再生医療については、これまでの研究成果が実を結び、世界に先駆けて北海道において実用化されることとなり、研究成果の社会への還元を行ったことは高く評価できる。  
第3期「中期計画」においても、幅広い臨床応用に向けた研究を推進していくこととしており、研究のさらなる広がりを期待する。
- ・ 地域においては、依然として厳しい医師不足の状況にあるなか、本道の地域医療提供体制の確保に向け積極的な役割を果たすため、道、関係機関等との連携を強め、地域の公的医療機関等への医師、助産師等の派遣機能を強化するとともに、地域における医師確保に向けた取組を引き続き行い、地域医療の充実に貢献することを期待する。
- ・ 第2期において、改善努力を続けてきたものの、法人自ら設定した附属病院の収支改善の数値指標が目標達成には至らなかったことから、今後、医薬材料費等、支出の大きなウェイトを占める費用の節約や見直しなど、支出面でのより一層の工夫が望まれる。
- ・ ユーザーが利用しやすいホームページを構築し、積極的に情報発信を行っていることは高く評価でき、第3期においても、より地域に根差した信頼される大学となるよう積極的に情報発信を行うよう期待する。

## 5 評価委員会(公立大学部会含む)の審議状況

- ・ 平成31年(2019年)4月18日 (第1回評価委員会・第1回部会) ~中期目標期間評価実施要領の決定
- ・ 令和元年(2019年)7月23日 (第2回部会) ~法人に対するヒアリング
- ・ 令和元年(2019年)8月20日 (第3回部会) ~評価結果の審議
- ・ 令和元年(2019年)8月27日 (第3回評価委員会) ~評価結果の審議、決定